



immunity power

免疫力を活性化して「病気」になりにくい体質づくり

インタビュー／吉水公子 聞き手／佐藤美穂子

体の中を洗おう・・・という発想

「体の外は洗えても、体の中は洗えない」としたら、体の中を徹底して洗って、毒素を体外に出せば良いという考えのもと、健康畑ではデトックス療法を勧めている。体の中からきれいにし、人間本来の免疫力を活性化し、「病気」にならない体質づくりをするという方法を実践する吉水代表に話を伺いました。

自然治療・ひらめきから実現へ

佐藤 このようなセンターをはじめられた動機を教えてください。

吉水 今、治らない病気が年々多くなってきましたよね。例えばガンやリウマチ、アトピー、C型肝炎などは現在の医療で治すことが難しい状態です。そこで、東洋医療・西洋医療問わずとにかくその人にとって一番良い形で治ることに近づけるような治療方法があれば、是非それを取り入れ治療を行う施設をやってみたいと思ったんです。極端に言うとお風呂に入って治る人はお風呂に入れば良いし、踊りを踊って治る人は踊りを踊れば良いという風に、それぞれにとって一番自然で良い治療方法をしてしまおうということですね。そういった自然な治療方法を医療という枠に付けながら今の医療プラスなにか足りないものがあるのであれば、それを見つけ

足していけば治るのではないかなと思っただけですね。元々病状がひどくなってしまう患者さんを沢山見てきましたので、そのようにならないよう予防医療的な感覚で病気にならない体作りというものをオーダーメイドで企画し、それぞれに合った健康を掴み取るというような意味で考えていったんです。

佐藤 クリニックにはどのような方々が訪れているのですか

吉水 半分は末期ガンの患者さんなど、各病気で既に治らないとされてしまっているような方々、あとの半分はお年を召した方やご夫婦が楽しみながら健康維持のためにいらっしゃっています。

佐藤 その2種類の患者さんではかなりの相違があると思うのですが。

吉水 そうですね。確かに通院の目的、治療方法など異なっていることは確かですが、ここではガン患者さんも健康な方も一緒に一緒にステージでしゃべったり歩いたりしているので特別区別するといった事はしていませんね。

佐藤 どのような流れで治療を行うのですか

吉水 私は患者さんの精神的ケアをし、医療に関しては全て医師が受け持っています。そしてその指示に従い看護師さんたちが動くというような流れです。



1) 日本免疫活性医学研究所 代表取締役 吉水公子 2) 聞き手 佐藤美穂子

人間も植物も動物も皆同じで健康な体、 健康な畑を持っていないと健康な心も芽も出ない

佐藤 末期の患者さんたちの精神的ストレスや病気の苦痛など大変なものがあると思いますが、どのような形で受け止めているのでしょうか。

吉水 初めて当クリニックにいらっしゃる際大部分の患者さんが持っているのは、自分は今もう治らないんだろという不安感ですよね。「本当に治るんですか」と聞いて詰めるようにおっしゃる方が多いのですが、人間の体と違うのは治る場合もあるし治らない場合もあるので「治りますよ」ということは断言できないんです。ただ、治るかどうかわからないけれども、一緒にトクネ

ルに入ってトクネルの出口を探すお手伝いは一緒にしましょうというお約束はできます。あとは過去にここに泊まっていた元気がなくなって退院されて来る先輩方がいますよね。そういった先輩方が「僕は治ったんだから大丈夫だよ」というように声をかけたりしてくれていて、患者さんもそうだったことがすごく励みになって、だんだん自分も元気になるかもしれないという意欲が湧いてきますよね。まず方は人に治してもらおうのではなく、自分が治ろうと思わなきゃ治らないんだという意識を持ってもらおうということが大切なんです。あとは今までの治療経過

をしっかりとドクターに尋ね、不安をなくすような前向きなアプローチをしてもらい、それに少し私たちが少しの変化でも見逃さず励ましてあげるといこうとです。

レストラン感覚のクリニックを

一流ホテルのように綺麗で華やかな施設にしようと思つた理由を教えてください。

吉水 元々私の中で医療というものは暗い、汚い、消毒臭い、待ち時間が長いというイメージがあったんです。ですからそれを払拭するには、綺麗で雰囲気良く、レストランに行くような感覚で気楽にふつと立ち寄れるような雰囲気のある導入をしてみました。その結果このような施設になりました。

佐藤 日本のホスピスの現状を、どのように捉えていますか。

吉水 今現在、日本のホスピスはどこも満員で人待ち状態です。まずホスピスという一般的な痛みを取る緩和ケアです。それも大事なケアですが、当クリニックの患者さんのようにもう治る望みがないとされた大勢の方々が現実として社会復帰しているわけですから、緩和治療だけでなく他にもやりようがあるんじゃないかと。まだ希望を捨ててはいけなと思いますね。

佐藤 ホスピスというのは哲学

だと言葉があります。吉水さんの場合は身をもってそれを実践されているということですね。

吉水 はい。そして最後まであきらめないということですね。

佐藤 その強い確信はどこから出てくるのでしょうか。

吉水 やはり私自身の今までの体験・経験からです。

現代医療への希望と今後の目標

佐藤 現代の医学・医療に望むことがありましたら教えてください。

吉水 私自身は体に優しいガン治療というのを考えているんです。今、最先端医療でも痛くない医療がありますよね、そういった体に副作用がない治療で、その人の体に優しいオーダーメイド治療をした後、ケアをしていくという形でそういった治療を通してできるセンターを各地にもっと作るべきだと思います。ですからこれからのガン治療は、今病院でやっている3本柱の手術・抗がん剤・放射線だけでなく、もっと国が積極的に超音波やサイバーナイフなどの様々な治療を保険で許可をしていってそれを選んで患者の体に一番優しい医療を選びながら、こういったケアセンターを併設して作っていくことをこれからガン治療に望んでいます。

佐藤 民間治療・代替治療について

吉水 代替医療も素晴らしいと思いますけど、やはり全ての面でのトータル的な治療をしないことには、その中の一つをやっているだけではなかなか治らないと思うんですね。代替医療や西洋医療を拒否している訳では決まらずに、一つだけではなく医療も上手く使いながら総合的治療をしていくことが一番だと思います。

佐藤 まさにホスピスとは「最後の場」という日本の考え方とは違い、外国での「生きる為の治療」という考え方を実践している訳ですね。最後にこれからの目標を教えてください。

吉水 はい。自己免疫の重要性、再発しない体、ガンにならない体作りということも含め今後はもっと啓蒙活動を各所に広めて行きたいと思っています。その為に「健康畑」という名前を付けたんです。人間も植物も動物も皆同じで健康な体、健康な畑を持っていないと健康な心も芽も出ないよという意味ですね。全国各地にこのような体の環境を作るリカバリセンター、リフレクシユ療法を行う施設を広め、皆がガンにならない健康な体作りをしていけるようになればと思っています。

佐藤 わかりました。今日は本当にありがとうございました。

吉水公子プロフィール

(株) 日本免疫活性医学研究所 代表取締役